

3学期始業式あいさつ

令和7年の新しい年を迎え、令和6年度も残すところあと3ヶ月となりました。3学期は3年生にとっては出雲農林高校の3年間の締めくくりであり、高校生活の完成の学期であるとともに、4月から始まる新しい生活に向けた飛躍の学期です。2年生、1年生にとってもこの1年間のまとめの学期として、そして4月から始まる新年度へ向けての準備の学期として大切な学期ですので、目標を決め、その目標を達成するためにどう取り組むかを考えながら、着実に成長してほしいと思います。

そこで、今日は「気づき・考え・実行する」について話をしたいと思います。この「気づき・考え・実行する」というのは、青少年赤十字（JRC）の態度目標です。本校は昨年度から今年度まで島根県高文連 JRC 専門部の事務局を務めています。春と秋の年に2回、県内の JRC 部員が一堂に会して、各校の取り組みを紹介したり、研究発表を行ったりしています。県下には13校に JRC 部があり、約170名の部員がおり、この態度目標を目指し日々活動しています。

この「気づき・考え・実行する」ことは、皆さんがこれから「生きる力」として必要となる「自ら学び、考え、主体的に判断する能力」を身に付ける上でもとても重要であると考えます。

また実際、多くの企業でも、近年、自分で気づき、考え、行動できる社員が少なくなり、多くの企業担当者がこの課題に直面しているそうです。自ら気づき、考え、行動できる社員は、組織にとって非常に価値のある存在となります。

気づき、考え、行動できるとは具体的にどういうことなのでしょう。その前に「主体性」と「自主性」について似ているようで少し意味が違うこのふたつの言葉を理解した上で考えてみたいと思います。

「自主性」とは、誰かに言われなくても「自分から進んで物事を行う」ことを指します。自分で判断し、意思決定し行動することを言います。しかし、必ずしもその結果に対して責任を負うとは限りません。自分から積極的に行動することが重点であり、その行動がもたらす結果に対する責任まで強調されるわけではありません。

一方、「主体性」とは、「自主性」の意味に加えて、その結果に対して責任を持つことも含みます。自分の決定や選択がもたらす結果が良いものでも悪いものでも、それに対して自分が責任を持つことです。

「自主性」と「主体性」、どちらも兼ね揃えている人材が多くいる組織と、そうでない組織とでは組織の活力や生産性は雲梯の差が生じます。些細なことであっても自ら進んで行動することが出来たり、選択した行動や判断に対して責任感が持てたりすることは非常に重要なことです。しかし現実には、「自分で考えられない人が増えた・・・。」と嘆く企業担当者が多いそうです。

そこで、自分で気づき、考え、行動できる人とそうでない人の特徴を見てみると、できる人の特徴としては、◆ポジティブである、◆失敗を恐れないチャレンジ精神がある、◆広い視野を持っている、◆知的な好奇心が旺盛である、◆思考を停止させていないなどが挙げられます。

また、そうでない人の特徴としては、◆目的や目標がなく問題解決しようとする機会がない、◆仕事が作業と化している、◆指示待ちである、◆自ら動こうとしない、◆責任感に欠け言い訳や不満を口にすることが多いなどが挙げられます。

皆さんには、是非とも自分で気づき、考え、行動できる人となっていただきたいと願っています。3年生の皆さんだけではなく、すべての皆さんが本校を卒業し、いずれ社会人となっていきます。そこで「気づき、考え、行動する」を新年を迎えるにあたっての目標としてはいかがでしょうか。

最後に今年は巳年。60年周期の十干十二支（じっかん・じゅうにし）では「乙巳（きのと・み）」で、42番目に位置し、努力や準備が実を結び始める年を示すそうです。また、変化と新たな挑戦のエネルギーが高まる年とされ、新しいスキルや知識を学び、自分の可能性を広げる絶好の年です。今年も皆さんの活躍を期待しています。